

演奏に
役立つ

One Point Lesson

SAXOPHONE

サクソフォーン

田端直美 たばた・なおみ



- ◆出身 埼玉県立伊奈学園総合高校、東京芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団
- ◆趣味 骨董市、古本屋めぐり
- ◆血液型 O型
- ◆星座 おうし座
- ◆読者にひとこと いつも心に音楽を!
- ◆手紙の送り先 BJ 気付
- ◆ブログ <http://naomisax.exblog.jp/>

美しくハーモニーを響かせる3原則

ハッピー・バースデー・トゥーユー♪ 友だちの誕生日を祝うため突然歌うことになったら、たいていメロディを歌いますよね? 以前、ホームステイしたベルギーでは、ハーモニーをつけて歌う人が続出してびっくり! アジア諸国は「ユニゾン文化圏」なのでメロディを全員で歌うため、「ハモる」習慣があまりないのですが、西洋音楽をするからには意識して「ハモる」感覚を身につけたいところ。さあ、今年はビーンとハーモニーが響く快感を味わいましょう~!

■「ハモる」3原則

美しいハーモニーを作るコツは3つ。

- ①音質・発音を揃えること
- ②音量バランスをとること
- ③音程をとること

まず①の「音質・発音を揃える」はアンサンブルの基本。音の響きを寄り添わせ、音質を決定づける発音を揃えないことには美しく響きません。ハーモニーに限らずユニゾンでも、2人以上で演奏するときはこれを忘れずに。とにかく周りを聴いて響きを溶け合わせようと思うことが大事です。ちなみにタバタはハーモニートーンを作るとき、上あごに暖かい息を当てるようにして吹いています。

②の「音量バランス」をとる基本は、根音(第1音)をしっかり鳴らしたうえで上声

[譜例]

(長調) (短調)
Dur → moll

第5音 第7音 第5音 第7音
第3音 第3音 第3音 第3音
第1音 第1音 第1音 第1音

5の割合 5の割合

第3音で和音の性格が決定

[図1] ピッチを下げる替え指

左小指の低い
もしくは B をプラス

どちらか1つ
もしくは2つをプラス

[図2] ピッチを上げる替え指

サイド (F#) キー
をプラス

左小指の低い (D#) をプラス
または半押し

部を乗せていくと安定した響きが得られます。よく出てくる「ドミソ」の3和音の場合は第1・第3・第5音を5:2:4くらいの割合で、7の和音の場合は5:2:4:1くらいのバランスがよいように感じます([譜例])。しかし和音の性格を決定するのは第3音なので、その音は大切だということを意識して! また、上記のバランスは各音の配置によっても変わってくるので、よく聴いて心地よく響くところを見つけてくださいね。

③の「音程をとる」が最も重要! チューニングしても温度・湿度・リードによって刻々と変わってくるものなので、常に耳を使って周り合っているか判断・修正していく必要があります。というわけで、臨機応変に対応できるように耳をつくるトレーニングを紹介しします。

■音程・響きを合わせる トレーニング方法

世の中に完璧な音程の楽器は存在しません(あったら教えて!)。というわけで、まず自分の音程のクセを知りましょう。

冬場は音出しをして楽器が暖まってからチューニング。そして音階をゆっくり歌うように、気持ちよく演奏します。そのとき、友だちにチューナーを見てもらい、基準値より高いか低いか、表に記入してもらいます。1週

間くらいデータをとれば自分のクセは分かるはず。このとき、チューニングしたのに基準値からはずれた音が多い場合は、チューニング方法を検討して、合う音が多い状態にもっていかせてください。

次にサクソパートで音階のロングトーンをして、発音・音質・響きを合わせる練習をします。同じ音を出してうなりが聴こえたら合っていない

いうこと。チューナーに頼らず、うなりがなくなるまで合わせていきます。低音の上に中音、そして高音と順に乗っていくと音程・バランス共にとりやすいです。B管は発音や音色がストレートになりやすく、Es管はこもりやすいので、お互い聴きあって響きを寄せていきましょう。

■音程の修正方法

サクソは真ん中のレ・ミや上のド#・レが高くなりやすいので、「舌の位置を下げる」「口の中を広くとる」「息の方向や息のスピードを調整する」「替え指を使う」([図1])などで修正してください。また、低いソ・レは音程が下がりやすいので、「口角を上げる」「息のスピードを上げる」「替え指を使う」([図2])などで修正してください。

■和音進行も大事よ

和音の縦ラインだけを合わせると、配置によってメロディが音痴になってしまう場合もあるので、必ず横の流れもチェックしましょう。たとえば、起立!礼!着席!でおなじみの和音進行と同様の要素が曲のあちこちに出てきます。礼!から着席!へと解決に向かってゆく和音進行を、どうもっていくかが大事。それには、自分のパートばかり一生懸命吹くだけではダメなので、コラールなどを練習して響きを体感してゆくのが一番でしょう。

■まとめ

日本のオーケストラや吹奏楽は442Hzがほとんど。けれど世界を見回すと様々で、アメリカは440Hzが主流で重厚な響きをするし、ヨーロッパは445Hz前後と高めで華やかな響きがします。国や団体によって、また同じ団体でも演奏時期や指揮者によって、発音から歌い直しからハーモニーの響かせ方で千差万別なので、同じ曲をCDで聴き比べてみると面白いですよ! 正解はひとつじゃないのが音楽の面白いところ。まずは耳で聴いて、いろんな音楽・響きを体感すべし!